

日光地区少年指導委員 功労ボランティア団体受賞

日光地区少年指導委員の皆様をはじめ、地域の皆様のご協力により今年度の事業が、滞りなく完了することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、日光地区少年指導委員の活動は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったことにより、過去3年間にわたり活動中止を余儀なくされてきました。

今年度は、4年ぶりに活動を再開することができ、主に日光、足尾両地域内で催されました祭典・イベント開催時の巡回活動、夏休み・冬休み前の子どもたちへの積極的な声掛けによる非行防止巡回、小来川小学校通学区域内の危険箇所の巡回などを実施してきたところです。委員の皆様が長年継続されてきました、地域の子供たちの非行防止のための見守り活動が、令和5年10月に栃木県警察本部より功労ボランティア団体として表彰されました。

今後も子どもたちの健全育成のため、地域の皆様のご協力のもと、引き続き街頭指導や児童、生徒への積極的な声掛けを行い、非行防止につなげてまいりたいと思います。



日光市少年指導委員の皆様、一年間ありがとうございました

令和5年度はコロナウィルス感染症が5類に移行し、難渋したウィルス対策は一步前に進み、当たり前だった日常が少しずつ戻ってきました。地域の行事やイベントは、楽しみにしていた子どもたちで賑わい、地域の良さを体感できる機会が増えてきました。

日光市少年指導委員86名の皆様には、日々の活動や行事・イベントなど、一年間を通して子どもたちが安全・安心に生活できるように献身的に取り組んでいただき、ありがとうございました。街頭指導は事務局の活動を含めると延べ72回実施(R6・2月現在)、愛の声掛けは298回でした。危険な行為には注意喚起をし、地域の大人が見守っている意識を多くの子どもたちが感じてくれていると信じています。

研修会参加報告 “不登校の問題”

下記の内容は、中学校・高等学校訪問から、各学校が苦慮している「不登校問題」について取り上げてみました。学校は、不登校対策委員会や関係機関との連携など、改善(対応)への努力を積み重ねています。今後、少年指導センターへの相談に適切に対応できるように、少年相談員として研修会に参加させていただきましたので、事例を紹介します。

☆ 第40回全国青少年相談研究集会報告〔令和6年1月18日・19日〕

【孤独／孤立の問題】「不登校・ひきこもり支援の在り方～理解と支援、当事者の視点から」

宮部将大氏(一般社団法人 hitto.toco 代表理事)

(宮部さんは、不登校→長いひきこもり→大学に入り学びなおし→28歳で法人設立)

中3で不登校Aさん 学校の卒業判定会議で、卒業できないと判定された。

校長先生の対応・・・中学校3年間何をやってきたか教えてほしいという旨の手紙を書いて本人に渡した。内容には支援している母親への感謝の文面も載せた。

本人が返事の手紙を書いて校長先生に渡す。

校長先生は「わかりました」「理解できました」と共感し本人の不登校理由、母親の支援を認め理解し卒業させた(不登校を否定しなかった家族のおかげで家が居場所になっていた。)

本人は、自分のために生きていくのは難しいが、家族のために生きていこうと考えるようになった。

以前に家族と買い物にいったスーパーで「働くようになった。」(社会復帰)(スーパーで働くことはゲームよりも楽しくなった。)

スーパーは大事に育てようと支援してくれた。

・知ろうとしてくれた。 ・わかろうとしてくれた。 ・不登校を否定されなかった。

<まとめ>

不登校・ひきこもりの心情を理解することは難しい。偏見もあるだろう。

大切なことは、その人をわかろうとすること。

専門性<関係性

研修会で心に響いたことばです

今の社会では、誰の声が聞き取りやすいか。マイノリティー(少数派)の視点からわがままじゃないかといわれても、わがまますを聞く社会でありたい。

まず大人、小さな声を見逃さない。

子どもと大人を分ける必要があるのか。一人ひとりみんな大切なんだ。